

一つの常識

白井市立南山中学校 三年 ムトアラッチ アケーン

「常識」それは人としての「当たり前」です。でもこの「当たり前」は全員に通用するものではありません。これが通用するのはあなただけです。

なぜ私がこの題材にしたかというと私に「当たり前」という言葉に対しての疑問があったからです。「当たり前」に基準はあるのかというものです。「当たり前」の基準は法律のようなすべての人が等しいものなのか、それとも人それぞれの感じ方で決まるあいまいなものなのか。私は人それぞれの感じ方で決まると思います。なぜなら私がバレーボールをしていてミスをしてしまったときコーチAは「今のボールはできなくて当然」と言う。しかしもう一人のコーチBには「取れただろう、反省として走れ。」と言われる。このように二人のコーチは矛盾していることを言っています。これは二人のコーチの出来事に対しての考えかたが違うからこのようなことになってしまいます。コーチAは取れないことが当たり前、コーチBは取れるのが当たり前、だから言っていることが矛盾してしまうのです。

それだけではなく、この出来事について書いている、私の考え方の方が、違うかもしれない。だから「当たり前」とは全てが正しくて全てが間違っているかもしれない。そんな曖昧なことなのです。しかし先ほど述べたように「当たり前」とは「常識」のことでした。

それならば、常識とは何なのでしょう。誰もが思い浮かべるのが「公共の場での過ごし方」や「スイカは野菜だ」のようなものです。さらにイメージとして「誰でもこんなこと知っている」というものも常識の枠に入ってしまう。しかし、こんなのおかしくないですか。「当たり前」は全てが正しくて全てが間違っています。それにもかかわらず、「常識」はみんな知っている世界の決まり事のようになっています。「当たり前」と「常識」はイコールの関係なのに知らない間に「常識」に掛け算のように「何か」が掛けられてしまったのかもしれない。そうだとしたならばほかの「何か」で割るしかありません。その「何か」というのが

「勘違い」です。「勘違い」とは簡単に言うとただの決めつけにすぎません。

ではなぜ勘違いなのでしょう。理由は簡単です。自分が勝手にその物事を常識だと決めつけただけなのです。例えばお葬式が行われるとき皆さんは何色の服を着ていきますか。大抵は黒色だと思います。お店で売っているお葬式用の服も黒色だと思います。でもこれは常識ではありません。なぜなら私の親はスリランカ出身なのですが、お葬式をするとき私たちが亡くなった方の死を悲しむことで先に進むことができなくならないように明るく送ってあげるために真っ白な服を着るそうです。このように「常識」も正解はないことがわかります。しかしだからと言って自分がすることすべてが正しくなるというわけではありません。人間は自分が今どんな立場にいてどんな環境にいるのかを知り、その環境に適応するために臨機応変に対応しなければいけません。そのときに便利な道具として助けてくれるのが「常識」なだけなのです。便利だからといって乱用してはいけません。

「当たり前」とは「常識」のこと。そしてその当たり前はあなただけにしかない。私はこれをその人の個性だと考えています。なぜならその人の思いであり、考え方であり、だれも知らないことがたくさん詰まっているからです。私の正解はだれかの不正解だから。この作文を考え方のもとにしてもいいし、こんなの意味ないって知らないふりをしてもいい。なぜなら、それがあなたの「正解」だから。